

大学で大人と学ぶ

12月8日(土)、日本保健医療大学幸手南キャンパスで行われた公開講座を、子ども大学の講義として2コマ連続で行われました。

食育から日常の食事を考える

日本保健医療大学公開講座の講義「食育って何?」で地産地消と埼玉の郷土料理を子ども大学としての2回目講義として、板谷幸恵先生(日本保健医療大学非常勤講師・女子栄養大学名誉教授)から食育の大切さを学びました。食育は約120年前に誕生し、人々に伝わってきました。江戸時代、主食が玄米から白米に変わった江戸では、体調が悪くなる人が出るようになりました。これは栄養不足による「脚気」という病気によるものでしたが、当時は江戸に行くとかかる病気が「江

戸病」と言われていました。胚芽には高い栄養素が含まれていますが、その胚芽を取り除いた白米では玄米に比べて栄養素が下がってしまいます。

江戸病にかかった人が故郷に帰ると治るといってお話がありました。食育の環境が変わったことで、栄養不足が解消されたからです。栄養不足に関してはその後、戦時中に21万人規模で大きな問題となりましたが、時代とともに私たちの食文化は食事バランスを意識したものに変わっていききました。

戦時中、高度経済成長期、バブル崩壊など、大きな社会の変化が起きると、食育の文化も変わっていききました。平成17年6月に食育基本法が制定され、食育の大切さが基本理念としてまとめられました。過去の歴史からわかるように、食



認知症の理解を示す

日本保健医療大学公開講座「食育」に続き、同日の2部では、フリーアナウンサーの岩佐まり先生による「若年性認知症の母と生きる」の講演が行われました。

岩佐先生は、お母さんが若年性認知症になってしまった経験から、講演活動を行っています。岩佐先生のブログは読者数3万人、月間総アクセス数は300万PVと人気があります。テレビでも紹介されています。岩佐先生は現在、要介護5、重度のアルツハイマーになったお母さんと一緒に暮らしています。アルツハイマー型軽度認知障害(MCI)と診断されたから今日まで10年。その間の経験から、認知症について知ることの大切さを教えてくれました。

認知症は生活に支障が出る程の

物忘れがおきるだけでなく、徘徊や暴言・暴力といった問題が出てきます。支える家族も、病気のことで、そして介護に関する制度の知識がないため、対応の仕方がわからず辛い状況に陥ります。

会話の途中でも、その会話そのものを忘れてしまう事があるそうです。自宅のトイレの場所がわからなくなったたり、お風呂に入れなくなったりと、次第に目を離すことができなくなり、仕事をしている家族にとって、デイサービスの対応できない不在時間は心配でなりません。さらに徘徊も始まると、山や川、線路や交差点など、街には事故リスクが沢山あります。徘徊、そしてデイサービス拒否、暴言、暴力など、

（認知症チーム・吉田心遙、山口

学長の言葉

子ども大学さって学長

(幸手市教育長) 山西 実

「子ども大学さって」は、25年9月から日本保健医療大学や教育に熱心な高い市内の有志の皆さんのご協力をいただいて開催され、今年で6回目を迎えました。今年も学ぶ意欲あふれる大勢の小学生の皆さん

んが入学し、5回にわたって真剣な中にも楽しく学び合っている姿が拝見でき、とても嬉しく、頼もしくさえ思えました。これからの社会は、経済発展や技術革新により人々の生活は大きく変化し続けます。そんな時代を生き抜くには、自ら学び、学び合い、そして学び続けていく姿勢を大切にする必要があります。想定外の事象や未知の事象に対しても自らのもてる力を総動員して主体的に解決していく力を培っていくことが必要です。そのために、学校で基礎となる学力や体力、そして、人間としての生き方などについて確実に身につけることが不可欠です。さらに、自分の関心のあることに積極的に調べたり、一な

たり、他者と協力して対応したりしながら、家庭や地域で学ぶことが必要になります。このようなことから、今年の「子ども大学さって」では、すばらしい講師の先生方のご指導をいただきながら、様々な生き方やコミュニケーションの回り方などの情報を自ら収集し、理解し、意思を形成し、新聞に表現するという学びを展開しました。インプットだけでなく、聞取りというアウトプットするアクティブな学習は、とても大切なことですが、この力が次代に生きる子どもたちにとって最も大切な力だと思えます。その大変な学びを市内の小学生同士で話し合い、協同しながら楽しく進め、新聞という形で成果をまとめることができたのは、とても意義あることだと思います。



なせ、そうなるのか一を考え、課題を発見

ご協力、ご支援いただいた関係の皆様、そして、子ども達の活動を支えて下さったご家庭の皆様には、深く感謝と敬意を申し上げます。